



(自分の村が取り上げられて喜ぶ生徒)



E education プロジェクト
 村の貧しくも才能のある学生を生徒を救う

E education プロジェクトは日本の早稲田大学学生の atsuyoshi とダッカ大学学生マヒンによってスタートした教育プロジェクトで現在農村 2 地域に教室を展開している。

グラミン銀行ユヌス博士のソーシャルビジネスのコンセプトののっとり、貧しくも才能ある学

生へダッカ大学合格へ向けた授業を提供している。
日本の一橋大学 米倉教授も協力している。

参加学生のリキシャワラーの息子ロハマンはいう

「僕は高校の成績はいいのに、お金がないためにダッカ大学に挑戦できなかった。しかしいまは eeducation のおかげでチャレンジできる。」

女子生徒ジャハナダはいう。

「ダッカの予備校にいけば 4 万タカ以上のお金がかかります。これは私の両親には不可能です。eeducation だけが同じクオリティの授業を村で、無料でうけることができます。」



男子学生のヘラルはいいいます。

「僕はダッカ大学にいくななんてイメージなんてできなかった。それでもダッカツアーのあと夢ができたんです。いまは、ぜったいダッカ大学で勉強したい。」

マネージャーの atsu と maheen はいいいます。

「大学進学支援だけでなく、バングラデシュを背負うリーダーを育成したい。」

授業はダッカの一流予備校の先生たちによるものだ。

女子生徒ルビーの両親は彼女の大学行きを反対していた。

ダッカの予備校は費用が高いうえに、ダッカに一人娘を行かせるのはイスラムの教え上好ましくないからだ。しかしいまは彼女の進学を応援している。

「ダッカの予備校に娘ひとりを行かせるのは心配ですが、いまはプロジェクトのおかげで村で授業をうけられる。もちろん娘の挑戦を応援します。」

村の高校教師マンナンはいう。

「このプロジェクトは革命的だ。これからは村の埋もれた才能をどんどん掘り出してほしい」